

公益財団法人 日本サッカー協会
2015年度 第2回理事会

協議事項

<p>1. ACL出場クラブ財政的サポートの件</p> <p>2013年に再度「ACLサポートプロジェクト」を立ち上げ、JクラブがACLで優秀な成績を収めるために、様々な課題を抽出し、その解決のサポートに努めてきた。しかしながら、2013年の柏レイソル準決勝進出が近年の最高到達順位に留まり、2014年は1クラブもラウンド16ステージ（以下R16）を突破できなかった。この結果に加え、2015年からクラブ競技会における戦績が以降の出場枠数決定要素として以前より大きな比率を占めることになった。</p> <p>2007年（浦和）及び2008年（G大阪）以来遠ざかっているアジアタイトルの奪還、JリーグおよびJクラブのアジアでの地位向上、FIFAクラブワールドカップ出場によるJクラブの更なるレベルアップという目標を再確認し、多角度の検証結果を踏まえ、2015年大会出場クラブを対象とした財政的な環境の改善を図るべく、財政的サポート方法の更新を以下の通り提案したい。</p> <p><2014年までの財政面サポート></p> <p><u>JFAからのサポート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 準々決勝以降のステージ進出インセンティブとしての強化費 <p><u>Jリーグからのサポート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ グループステージおよびR16遠征費（航空券代）80%を補助 ▶ 準々決勝以降の遠征費（航空券代）50%を補助 <p><2015年からの財政面サポート></p> <p><u>JFAからのサポート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ グループステージにおけるインセンティブとしての勝利給（試合ごと） ▶ R16、準々決勝、準決勝各ステージ進出インセンティブとしての強化費 <p><u>Jリーグからのサポート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ グループステージおよびR16遠征費（航空券代）80%を補助 ▶ 準々決勝以降の遠征費（航空券代）50%を補助
<p>2. JFA・Jリーグ特別指定選手制度の件</p> <p>（協議）資料No.1</p> <p>2015年シーズンのJFA・Jリーグ特別指定選手制度を別紙の通りとしたい。</p>
<p>3. 第10回フットボールカンファレンスの件</p> <p>（協議）資料No.2</p> <p>第10回フットボールカンファレンス開催候補地決定の手続きを次のとおりとし、各都道府県協会より開催希望を募り、開催候補地を決定したい。</p> <p>同カンファレンスは2年おきに行われ、FIFAワールドカップ終了後の開催は、ワールドカップのテクニカルスタディを中心に行い、その次は育成を中心に行っている。2017年の第10回は育成の回となる（過去の開催地は文末参照）。</p> <p>なお、第11回以降のカンファレンスの実施周期や規模等については引き続き検討していく。</p>

■ 第10回 フットボールカンファレンス概要（予定）

日 程：2017年1月7日(土)・8日(日)・9日(月・祝)

参加者：約1,000名

公認指導者 800名 (S～D級)

海外ゲスト 50名 (FIFA／各大陸連盟／AFC加盟協会コーチ／ほか)

JFA関係者 120名

報道関係者 30名

参加費：25,000円

■ 開催にあたり必要な要件（共催FAにご協力いただきたい要件）

最低必要要件

- ① 国際会議場（大ホール1,000席以上・小会議室7～10室）の確保
- ② 国際会議場会場費（付帯設備含）の負担
- ③ 運営スタッフの確保と人件費(日当・謝金)の負担（開催期間中約30名）

その他検討事項

- ・宿泊ホテルの確保（海外ゲスト／関係者／参加者）
- ・懇親会会場の確保（約1,000名立食）
- ・アクセスの良さ（会場⇄ホテル⇄主要駅・空港）
- ・自治体とのタイアップの可能性
- ・国際会議場の付帯設備状況

■ 開催申請の手続き

- ① 開催申請書の提出
JFA 技術部宛 (2015年3月)
- ② ヒアリング (2015年3月)
- ③ JFA 技術委員会で審査 (2015年4月)
- ④ JFA 理事会で承認 (2015年5月)

■ 開催の効果

- ① 世界・アジア・日本の最新情報をダイレクトに聞くことができる。
- ② 世界・アジア・日本の指導者にダイレクトにメッセージを伝えることができる。
- ③ 元指導者が数多くカンファレンスに参加することができる。
- ④ 地元指導者と世界／アジア／日本全国の指導者が交流することができる。
- ⑤ 地元地域への波及効果
 - ・会場近隣商店街の売上増
 - ・会場近隣飲食店の売上増
 - ・地元宿泊施設、タクシー利用頻度増 等々

(過去の開催地とテーマ)

第1回（1998年11月28日～29日） J ヴィレッジ（福島県）

テーマ：1998 ワールドカップテクニカルレポート

第2回（2001年1月12日～15日） つくば国際会議場（茨城県）

テーマ：新世紀のフットボール

第3回（2003年1月11日～13日） パシフィコ横浜（神奈川県）

テーマ：post 2002 我々がすべきこと

- 第4回（2005年1月8日～10日） 浦安文化会館（千葉県）
 テーマ：世界トップ10を目指して
- 第5回（2007年1月5日～7日） 大阪国際交流センター（大阪府）
 テーマ：2006FIFA ワールドカップドイツ・テクニカルスタディー～新たな前進～
- 第6回（2009年1月16日～18日） 石川県立音楽堂（石川県）
 テーマ：世界トップ10を目指して～みんなつながっている！～
- 第7回（2011年1月8日～10日） 別府ビーコンプラザ（大分県）
 テーマ：Dream ワールドカップを掲げるために
- 第8回（2013年1月12日～14日） イズミティ21（宮城県）
 テーマ：世界トップ10を目指して～リスペクト～
- 第9回（2015年1月10日～12日） 東京ビッグサイト（東京都）
 テーマ：ワールドカップ2014～本気で日常を変えよう～

4. 日本人指導者海外派遣の件

（協議）資料No.3

下記各国サッカー協会からの要請を受け、アジア貢献事業の一環として下記指導者、派遣先協会との新規契約、及び契約変更をお諮りしたい。

① 派遣指導者： 小原 一典（おはら かずのり）（42歳）

派遣先協会： カンボジアサッカー連盟（FFC）

資格： スペインサッカー連盟コーチングライセンス
 レベル3（プロ監督資格）（2003年取得）
 JFA公認C級ライセンス（2004年取得）

役職： カンボジアサッカー連盟技術委員長

契約期間： 2015年3月1日～2016年1月31日

費用負担： [JFA] 給与および傷害保険料
 [FFC] 住居・自動車、日本-カンボジア間の航空券

略歴： 添付別紙の通り

<背景及び実施理由>

現在カンボジアには唐木田徹・壱岐友輔の両氏を派遣中。日本人指導者への信頼及び実績から、FFCより技術委員長の派遣要請を受け、小原氏のブータンでのユースダイレクター及びJFAアカデミーにおける経験を元に同氏の派遣を打診しFFCが受諾したもの。

② 派遣指導者： 築館 範男（つきたて のりお）（54歳）

派遣先協会： ブータンサッカー協会（BFF）

資格： 公認A級コーチ（1991年取得）
 AFCプロディプロマコーチ

役職： ブータン代表監督

契約期間： 2015年3月1日～2016年1月31日

費用負担： [JFA] 給与および傷害保険料
 [BFF] 住居・自動車、日本-ブータン間の航空券、
 ブータン-タイ間の航空券（高地休暇用）

略 歴： 添付別紙の通り

<背景及び実施理由>

ブータンの代表監督は小原一典氏が務めていたが、1月末の任期満了に伴い帰国。BFFより引き続き日本人監督の派遣要請を受け人選の結果、先方が希望するピッチでの経験値が高く、アジア各国のサッカーにも精通している築館氏の派遣を打診し、BFFが受諾したものの。

③ 派遣指導者： 乗松 隆史 (のりまつ たかし) (46歳)

派遣先協会： ベトナムサッカー連盟 (VFF)

役 職： ベトナム女子代表監督

契約期間： 2015年3月1日～2016年1月31日

費用負担： [JFA] 傷害保険料

[VFF] 給与、住居、国内移動車両、往復航空運賃

略 歴： 添付別紙の通り

<背景及び実施理由>

女子代表の更なる強化を目的とする派遣要請を受け、Jクラブでの経験及び豊富な海外経験を持つ乗松氏の派遣を打診しVFFが受諾したものの。

④ 派遣指導者： 久保 真一 (くぼ しんいち) (35歳)

派遣先協会： ベトナムサッカー連盟 (VFF)

役 職： ベトナム代表チームアスレティック・トレーナー

契約期間： 2015年3月1日～6月30日 (SEAゲーム終了時まで)

費用負担： [JFA] 給与の一部 及び傷害保険料

[VFF] 給与の一部、住居、国内移動車両、往復航空運賃

略 歴： 添付別紙の通り

<背景及び実施理由>

JFAの紹介により昨年5月に三浦俊也氏がベトナム代表監督に就任、同氏の要請により昨年末のAFFスズキカップ 2014 に藤本栄雄氏をアスレティック・トレーナーとして派遣した。2015年の五輪予選及びSEAゲームに備え再度派遣の要請があり、Jクラブでの経験を持つ久保氏の派遣を打診、VFFが受諾したものの。

5. 日本サッカー後援会 会員表彰の件

日本サッカー後援会会員として30年在籍した方に対し、永年に亘る援助に対する感謝として、以下の通り表彰したい。尚、本表彰制度は2008年より実施している。

後援会からは1977年の発足以来、日本代表強化の為に毎年強化費を頂いており、その累計は約14億円に上る。

(1) 対象者：13名

※参考：2014年23名、2013年12名、2012年12名、2011年17名、2010年22名、
2009年48名、2008年101名

(2) 表彰内容：①感謝状及び記念楯の贈呈

②2015年中に、日本代表戦1試合ご招待

【参考】日本サッカー後援会からの強化費収入 (過去10年)

2005年度 76,000千円 (JFA 60,000千円、Lリーグ・フットカ各8,000千円)

2006年度	65,000千円	(JFA 55,000千円、なでしこリーグ・フットサル各5,000千円)
2007年度	64,000千円	(JFA 52,000千円、なでしこリーグ7,000千円、フットサル5,000千円)
2008年度	59,000千円	(JFA 43,000千円、なでしこリーグ5,000千円、フットサル10,000千円、 こころのプロジェクト1,000千円)
2009年度	46,000千円	(JFA 30,000千円、なでしこリーグ5,000千円、フットサル10,000千円、 こころのプロジェクト1,000千円)
2010年度	47,000千円	(JFA 31,000千円、なでしこリーグ5,000千円、フットサル10,000千円、 こころのプロジェクト1,000千円)
2011年度	46,000千円	(JFA 30,000千円、なでしこリーグ5,000千円、フットサル10,000千円、 こころのプロジェクト1,000千円)
2012年度	48,000千円	(JFA 32,000千円、なでしこリーグ5,000千円、フットサル10,000千円、 こころのプロジェクト1,000千円)
2013年度	50,000千円	(JFA 34,000千円、なでしこリーグ5,000千円、フットサル10,000千円、 こころのプロジェクト1,000千円)
2014年度	55,000千円	(JFA 34,000千円、なでしこリーグ5,000千円、フットサル10,000千円、 こころのプロジェクト1,000千円、JFL5,000千円)

6. 各種委員 変更の件

1月1日付け事務局内の組織変更及び人事異動に伴い、以下の通り委員を変更したい。

【女子委員会】

委員 (新) 真田 幸明 女子部部长

(現) 松田 薫二 グラスルーツ推進部部长